

- 正式な会議録が作成されるまでの暫定的なものであり、今後修正されることがあります。
- 音声認識システムで認識できなかった発言等は「★」で表示しています。
- 「★」の数は発言の文字数を表しているものではありません。

令和8年3月17日

災害・オウム対策調査特別委員会

速報版

- 正式な会議録が作成されるまでの暫定的なものであり、今後修正されることがあります。
- 音声認識システムで認識できなかった発言等は「★」で表示しています。
- 「★」の数は発言の文字数を表しているものではありません。

午前9時57分開会

○水野あゆみ委員長 皆様おはようございます。ただいまより災害・オウム対策調査特別委員会を開会いたします。

_____ ◇ _____

○水野あゆみ委員長 初めに、記録署名員2名を指名いたします。
工藤委員、加地委員、よろしく願いいたします。

_____ ◇ _____

○水野あゆみ委員長 次に、報告事項に移ります。
①から⑧まで以上8件を危機管理部長から、⑨⑩以上2件を都市建設部長から報告願います。
○危機管理部長 おはようございます。よろしく願いいたします。
それでは、危機管理部の報告資料2ページを御覧ください。

まず件名は、アレフ（オウム真理教）対策についてでございます。

ここ最近のアレフ対策活動を報告するものですが、項番1には住民協議会による抗議行動の実施について、項番2ではアレフから訴えのあった反社会的団体の規制に関する条例に基づく第3次過料処分取消し訴訟において区が勝訴したこと、3ページに参りまして、項番3は、区の裁判ではございませんが、麻原の次女による遺骨等引渡し訴訟において、一審に続き二審でも国が敗訴したこと、項番4は地下鉄サリン事件の風化防止の展示を本庁舎で実施すること、項番5は職員向けのオウム真理教問題の今年度2回目の研修会を実施したことを報告しております。

今後についてでございますが、来年度は観察処分の更新、継続を求める署名活動が予定されておりますので、引き続き全庁を挙げて協議会や住民の皆様への支援を継続してまいりたいと思います。
次に、5ページを御覧ください。

件名は、災害ケースマネジメントの導入に向けた状況についてでございます。

過去の災害で課題となりました災害後の被災者への継続的な相談体制や支援の仕組みについての構築について、今後足立区でも取り組む必要があると感じており、6ページを御覧いただき、項番2、3にあるような取組を令和7年度に実施、7ページにある課題を抽出いたしました。8ページを御覧いただき、今後はその課題への取組を進めてまいります。

続きまして9ページを御覧ください。

件名は、令和7年度足立区防災会議の結果及び足立区地域防災計画の改定についてでございます。
項番1では今年度の防災会議の実施結果について、項番2ではその会議で地域防災計画の改定が承認されたこと、具体的な内容につきましては次のページ以降を御覧になっていただきたいと思っております。

今後は、4月を目途に、改定された地域防災計画をホームページ、またサイドブックにも掲出する予定でございますので、御確認いただければと存じます。

続きまして、ちょっと飛びまして30ページをお開きください。

件名は、災害時における守谷市と足立区との相互応援に関する協定締結及び今後の方針についてでございます。

これまでも他の自治体との災害協定締結しておりましたが、今回、守谷市とは更に一步踏み込んだ内容にしたいと考えております。

- 正式な会議録が作成されるまでの暫定的なものであり、今後修正されることがあります。
- 音声認識システムで認識できなかった発言等は「★」で表示しています。
- 「★」の数は発言の文字数を表しているものではありません。

例えば、足立区の備蓄物品を守谷市に保管していただき、足立区民が守谷市に避難した際には提供いただき、守谷市が被災した際には守谷市民に提供してもらうなど、更に実効性を向上させる協定にしていきたいというふうに考えております。

項番1、2では、協定締結に向けて、まず今年度は基本的な枠組みを結び、令和8年度は詳細の項目の協定を結ぶ2段階で進めてまいりたいと考えております。

今後は、この協定をきっかけに、他の自治体でも同様の協定を結べないかなどを検討して、遠隔地への避難場所の確保を進めてまいりたいと考えております。

次に、32ページを御覧ください。

件名は、令和7年度北千住駅前・綾瀬駅前等滞留者対策推進合同協議会の実施結果についてでございます。

災害時に駅前滞留者の発生が見込まれる北千住駅、綾瀬駅などでの対策を行う両協議会が合同で協議会を実施、開催したことについての報告でございます。

項番1以降に当日の概要、議題、主な意見を記載してございますが、今後の方針といたしまして、令和8年度は合同で図上訓練、北千住と綾瀬です、合同で図上訓練を行いたいと考えております。

続きまして、34ページを御覧ください。

件名は、令和7年度足立区震災対応図上訓練の実施結果についてでございます。

去る1月28日に区が実施いたしました図上訓練について報告するものでございます。

項番1には訓練の目的、項番2には概要、項番3には実施結果を、35ページを御覧いただきまして、項番4、5で今後の取組、方針を記載してございます。36ページには、今回の訓練で得られた課題と取組を記載してございます。

令和8年度、来年度の訓練についてですけれども、今回の図上訓練、それから実際に職員が動く訓練、実働訓練です。それから、各避難所の訓練とも、土台を固めるための訓練として、テーマを絞って訓練を展開したいというふうに考えております。例えば、水だとかトイレだとか備蓄だとか、そういうふうにオペレーションがまだまだ詳細に決まっていない部分が多いというふうにこのところ感じておりますので、そういったことをテーマを絞って、具体的でない手順を洗い出して実効性のあるオペレーションへと見直してまいりたいというふうに考えております。

続きまして、37ページを御覧ください。

件名は、令和7年度江東5区広域避難シンポジウムの実施結果についてでございます。

江東5区で持ち回り開催しているシンポジウムでございますが、3月1日に足立区庁舎ホールで、区役所の庁舎ホールで開催いたしました。御出席いただいた委員の皆様には改めて御礼申し上げます。

項番1から目的、実施日時、当日のプログラム、38ページに参りまして、項番4は東京大学の片田特任教授による基調講演の内容を記載してございます。

その後、項番5のパネルディスカッションを行い、39ページに参りまして、パネリストの方の主な発言内容を記載してございます。

今後は、各区の取組を共有するなど、単にイベントとしてだけでなく、更に実効性を向上させる内容を盛り込めるよう、各区に働きかけてまいりたいと考えております。

次に、41ページを御覧ください。

件名は、令和7年度千住常東地区コミュニティタイムライン運用訓練の実施についてでございます。

- 正式な会議録が作成されるまでの暫定的なものであり、今後修正されることがあります。
- 音声認識システムで認識できなかった発言等は「★」で表示しています。
- 「★」の数は発言の文字数を表しているものではありません。

明日18日、3月18日に千住あずま住区センターで足立防災リーダーを交えたコミュニティタイムラインの運用実験を行うことを報告するものがございます。

42ページを御覧いただきまして、訓練内容と今後の方針について記載してございますが、今後はこうした取組の広がりを地道に行ってまいります。

更に地域の多くの方々を巻き込みながら、防災意識の向上、地域の防災意識の向上に努めてまいります。

私からは以上でございます。

○都市建設部長 引き続きよろしくお願ひいたします。

報告資料、都市建設部でございます。

初めに、災害時におけるドローン運用計画(案)についてでございます。

こちら、項番1、ドローン計画の概要でございますが、策定の目的、計画期間につきましては記載のとおりでございます。

(3)の主な運用方針でございますが、アとしましてフェーズごとの災害対応、イとしましてパイロットの体制整備、ウとしまして機体の保有のことなのですが、現在、機体保有については、3ページございますとおりの6機でございます。

この計画に基づきまして、今後の方針でございますが、パイロットの増員、機体の更新等を計画的に進めて、災害対応力を向上させ体制を強化してまいります。

なお、子細につきましては、4ページ及び別添資料を参照願います。

続いて、足立区都市復興シミュレーションの取組についてでございます。

令和8年度以降の足立区都市復興シミュレーションの取組について、以下のとおり報告するもの

でございます。

まず、都市復興シミュレーションでございますが、こちら大災害からいち早く都市を復興させることとしまして、地域住民と区職員による訓練を令和5年度より開始をしております。

項番2の都市復興シミュレーション実施状況でございますが、令和5年、令和6年は以下の記載の地区で取り組んでいるところでございます。

6ページでございます。

今後実施する地区の選定でございますが、こちらの優先順位表に記載の地区につきまして、地域の皆さんと御相談しながら、地区を選定してまいりますと思ひます。6、7ページに一覧を記載させていただきます。

8ページでございます。

最後、今後の方針でございますが、選定結果を基に、都市復興シミュレーションの実施について地域住民に働きかけてまいります。

私からは以上でございます。

○水野あゆみ委員長 それでは質疑に入ります。

何か質疑はございませんか。

○市川おさと委員 おはようございます。

災害時におけるドローン運用計画(案)についてなのですが、ドローンというのが足立区に限らず、各自治体で非常に力を入れている、特に災害時、災害時の対応でドローン運用というのがすごく力を入れていて、しかも、私が知る限りどこの自治体でも、内製化というのかな、自分のところで自前の職員を鍛えてやるという形でやっているというふうに把握しています。

何でかというところ、この間ちょっと和歌山の田辺という先進のところに行ってきたのですが、何でか聞いて確認したら、まず、技術レベルが一般の人に使いやすいように下りてきているという、それがすごく大きい理由なのだということがおっ

- 正式な会議録が作成されるまでの暫定的なものであり、今後修正されることがあります。
- 音声認識システムで認識できなかった発言等は「★」で表示しています。
- 「★」の数は発言の文字数を表しているものではありません。

しゃってたのですけれども、私何を言いたいかというところすごく期待してるといことが一つ言いたいだけでも、ただ、足立区が実際どのようなドローンをどのような形で運用しているのかというのは、こうした委員会の場などでペーパーで教えてはもらってるのだけれども、実際にどういうドローンを飛ばしているのか、そして、ドローンを飛ばしてビデオ撮ってそれで終わりではないはずなんだよね。それを、田辺の場合だったら三次元モデルに落とし込んで、そういう情報共有するという話なのだけれども、そういう、現場の実態というのを私見たことないのですよ。ほかの委員さんどうですか、見たことある人いますか。見てるんだ、見たことある人いる。見たことある人と見たことない人いるのだけれども、これは是非見たいなと。こういうことを取り組んでるのだということもちゃんと見たいなと思うのですけれども、その辺り何か機会をつくってほしいなと思うのですけれども、どうでしょうね。

- 都市建設課長 実際ドローンにつきましては、例えばですけれども、東京消防庁と足立区と合同防災訓練であったりとか、あとそういうところで一応ドローンを出しているところがございます。ここで御覧になっていただくことも可能かと思えますけれども、またそういう御意見があるのであれば、また別の機会を可能な限りちょっと設けていきたいなと思っております。
- 市川おさと委員 要するに、ドローンが飛んでるところを見たいわけではないです。それも見たいのだけれども、ドローン飛んで撮った画像を足立区の場合はこの三次元モデルに落とし込んでるのですか。まずそれをちょっと確認して。
- 都市建設課長 現時点では、3Dマッピングとかは、今現時点ではやっておりませんが、ただ、台風のときに、荒川河川敷が増水したときに

はドローンとかでどの程度、土を除却しなきゃいけないとか、そういう測量などはやらせていただいている状況でございます。

- 市川おさと委員 まだやってないということなのだけれども、もう三次元モデルの生成というのは、そんなに難しい話ではないと思うのだけよ。要するに、こっちが技術的にスキルを磨くとかという話ではなくて、僕も詳しいこと分らないけれども、何かそんなに難しい話ではないと思うので、要するに、これやることによって、三次元モデルを落とし込むことによって、所管の専門の人が見るだけではなくて、全庁的にどの職員でも見ることができるとい形になって、機動力が増すというふうに思うのですけれども、その辺りの対応の方法はどうなのですか。

- 都市建設課長 来年度、3Dマッピングをできるようなソフトも導入したいなと考えております。また、実は国も同じような形でデジタルツインというのを実はやっておりまして、プラトリーというものなのですけれども、そこでも3Dのマッピングは一般の方が御利用できる状況もございますので、そういうところも踏まえながら、今後どうしていくかは考えていきたいと思っております。

- 市川おさと委員 そういった、もちろんドローンの姿を、雄姿を見たいというのものもあるのだけれども、そのドローンで撮影したものをデジタルツインですか、デジタルツインという形でどのように落とし込んでるのか、その成果物なども、議員に限らず、一般区民の方も見られるような、そういう形にしてもらうといいのかなと。

また、もちろん職員がしっかり見て、それで、もちろん田辺の場合もそうなのだけれども、災害対応がやっぱり一番大事なのです。災害対応が中心なのだけれども、一方で例えばまちづくりとか、ほかの部分にも相当応用できると。相当応用でき

- 正式な会議録が作成されるまでの暫定的なものであり、今後修正されることがあります。
- 音声認識システムで認識できなかった発言等は「★」で表示しています。
- 「★」の数は発言の文字数を表しているものではありません。

るといので、田辺が先進的な自治体と言われてるのだよね。そのためにも、この三次元モデルの生成と、それを全庁的に誰でもいつでも端末たいて見ることができると、そういう環境整備というのはすごく重要なのかなと思うのですけれども、副区長いかがですか。

○副区長 足立区の方も、職員、随分たくさん養成をしてまして、災害時に物資を運ぶような特殊なところまで撮れるように今なってます。

そういった意味で、そういったことを皆さんにお知らせするというのは非常に重要ですので、来年度、3Dマッピングも導入するというので、是非議会の方も含めてお示しをしたい、見ていただければ非常にありがたいと思います。

○市川おさと委員 そういうものを見る機会というのが、当委員会に限らず、議会の方でしっかりとそういう場をつくってもらえればなと思いますけれども、副委員長いかがですか、副議長いかがですか。たまには発言させるんだよ。

○副議長 市川委員、御質問ありがとうございます。いつ来るかな、いつ来るかなと思ってたのですけれども、とうとうこの場所で来たな。

大変にいい御意見だと思いますので、是非実現できればと思います。よろしくお願いします。

○水野あゆみ委員長 他に質疑ございませんか。

○佐々木まさひこ委員 まず、オウムの裁判でございますけれども、松本智津夫元死刑囚の遺骨等を引き渡すよう次女が国に求めていた訴訟、これは区が絡む裁判ではございませんけれども、高裁で控訴審の判決言渡しで国が敗訴になりました。国は、遺骨が後継団体に渡れば教団の活動が活発化し公共の安全や社会秩序に重大な脅威となるといいう可能性があるとしていますし、信者間の争奪の対象となり、紛争や犯罪を招くおそれがあるとも主張して争っていたわけですが、これが敗訴にな

ったわけは一体どういうことになりますでしょうか。

○危機管理課長 裁判を傍聴してきましたけれども、次長の方が警備会社と契約した自宅マンションの金庫で保管するというのと、あと後継団体に渡さないという意思があるということと、所有権を国が制約することはできないということと、理由に国が負けたということで聞いております。

○佐々木まさひこ委員 そうしますと、次女の方は、基本的に信者団体に遺骨を渡す意思はないということが多分最大の大きな理由になろうかなと。それから、いわゆるきちっとしたセキュリティ契約が結ばれた自宅の金庫で管理するのだということでありまして、国がいわゆる恐れているようなことはないだろうという考えの下で判決が下されたという理解でよろしいですか。

○危機管理課長 これは、高等裁判所の裁判官がおっしゃってましたけれども、後継団体の危険性は今も失われていないというところは裁判官もおっしゃっていました。

ただ、新規の信者の獲得というのは、今、団体処分の規制が掛かってますので活動を行ってないのでけれども、その危険性はあるというところの認識はあるということで判決がありました。

○佐々木まさひこ委員 それでは、最高裁にこれらの審理が移ってますので、まだしばらく、ある程度の期間を要するものと考えられますので、この推移を見守ってまいりたいというふうに思います。

あと、次に、災害ケースマネジメントの導入に向けた状況についてということで、非常に詳しく様々検討する事項、山ほどある中で、本当に意欲的に取り組んでいただいて感謝を申し上げたいというふうに思います。

行政の力だけではカバーできない部分、多々ありますので、関係機関や支援団体と連携して、餅

- 正式な会議録が作成されるまでの暫定的なものであり、今後修正されることがあります。
- 音声認識システムで認識できなかった発言等は「★」で表示しています。
- 「★」の数は発言の文字数を表しているものではありません。

は餅屋で支援する体制を発災前に構築しておくという表現がございましたけれども、これはこれからいろいろ検討していくのだろうと思いますけれども、今の段階でこの餅屋に該当する団体というのは、例えば弁護士団体とか、いろいろあるかと思いますが、大体どういったところを想定していらっしゃるのか、お伺いしたいというふうに思います。

○災害対策課長 問題が多岐にわたるというふうには思っております。区役所に近いところと言えば社会福祉協議会がやはり中心にかなり関わっていただく必要があるというふうに思ってますし、あとは不動産の関係とか建築の関係、またもちろん法曹とか福祉とか就労、幾つもあるかと思っておりますので、その辺りをやっぱり事前に整理して、関係をつくっておくところが重要なことというふうに思っております。

○佐々木まさひこ委員 社協はもちろん、災害ボランティアをまとめなきゃいけませんから。

様々な団体ときちっとした形で事前に協定を結んでおく、それに伴って、やるべき事項を様々な想定して協定を結んでいくということは大事なことだというふうに思います。

これに加えて、以前本会議でも質問させていただきましたが、基本的に被災された方が一番最初にやりたいと思われることというのが罹災証明の取得、それから被災者生活再建支援制度の利用、そして災害弔慰金制度等、そういったものをまずはメイン、これが大体被災者の方を支援するメインの制度でございますので、そういったものをまずやらなければならない。

そういったことの最低限の基本的な事柄をまとめたハンドブック的なもの、既存のものでもいいから、きちっと準備しておいたらいかかというような質問をさせていただいてますけれども、そ

ういったところに関しましてはいかがでございますか。

○災害対策課長 やはり被災されて、まず最初に必要になってくるというのは罹災証明とかです。その辺りの最初の被災された方が、まずどういった形で復興に向けて進んでいくのかということの分かりやすいパンフレットみたいなものは必要かと思っておりますので、その辺り用意できるように、私どもの方で検討していきたいというふうに思います。

○佐々木まさひこ委員 それから、大規模な災害が発生した場合、国、それから東京都、様々なところから通知とか事務連絡などが大量に発出される。東日本大震災のときも、足立区はそういったものをほとんどそのまま時系列でホームページで発出してましたけれども、この情報を被災された自治体の職員さんの正直な実感というのは、もうそれこそ本当にもうてんやわんやで、それこそ避難所を運営するだけで手いっぱい、様々な情報がいろいろ来ても、それをきちっと正しく被災者の皆さんに伝達するすべなどなかったというのが正直な実感だというのが本には書かれておまして、そういった様々な情報を全て受けて、重要度を判定して、しかるべき部門にきちっと届かせるような、いわゆる情報管理官みたいな、そういう役割の人がいないといけないのではないかなというふうに思っているのです。

東日本大震災のときも、災害弔慰金をローンの返済に充てる必要ないというふうにされているのに、ローンの返済に充ててしまった人が結構いらっしゃる。そういったことをきちっと被災者の方に伝える、情報を素早く区民に伝える必要があると思うのですが、本会議で質問して、災害復興法学という本を書かれた岡本正弁護士の研修を職員向けにやっていただいたと思いますけれど

- 正式な会議録が作成されるまでの暫定的なものであり、今後修正されることがあります。
- 音声認識システムで認識できなかった発言等は「★」で表示しています。
- 「★」の数は発言の文字数を表しているものではありません。

も、そういったところも含めて、岡本弁護士なども連携しながら、そういったところも取り組んでいただきたいと思います。いかがでしょうか。

- 災害対策課長 災害になると様々な情報が来て、区民の方にもそれをしっかりとお伝えしていかなきゃいけないというわけですので、我々、区側も恐らくかなり混乱するというふうに思われますので、そういった知見のある先生の御意見を伺って体制をつくっていくということは重要なことかなというふうに思っております。
- 佐々木まさひこ委員 あと、ちょっと話が変わりますけれども、簡易ベッドの確保ということで、要支援者用として7,000台確保したということで、非常に、私もちょっと寝させてもらいましたけれども、寝心地いい、非常にいい。80cmあるので寝返りが可能で、ちょっと頭の方が持ち上がるような形になっていて、要支援者の方向けなのですけれども、これ今後増やす予定というのはあるのでしょうか。
- 防災戦略課長 ベッドもいわゆる備蓄スペースとか、そういったところがありますので、総合的に、追加については総合的に検討していきたいというふうに考えております。また、新年度は、ベッドと同数の簡易テントを導入しようと考えておりますので、またその後、いろいろ検討していきたいというふうに考えております。
- 佐々木まさひこ委員 なるほど。そうすると、プライバシー確保という観点も進めていくということだろうと思いますけれども、それでエアマット、これは保管にはなかなかかさばらないのでいいのですけれども、これも試したことあるのですけれども、エアマットの幅60cmなんですよね。寝転がって、比較的快適なのですけれども、寝返りしようすると、これが落ちるんですよね。うまくつなぎ合わせて使えば何とかかなかなと思うの

ですけれども、けちらないでもうちょっと幅の広いの買ってくれた方がよかったかなと思うのですけれども、18万個ももう買っちゃってますからね。うまく運用してもらいたいと思いますけれども、このエアマットに関しましては今後どんなような形を考えていらっしゃいますか。

- 防災戦略課長 エアマットも、一旦ちょっともう購入し切っちゃってますので、また今後入替えが発生する場合には、またそういったいろいろな幅ですとか使い勝手とか、エアマットなのかどうなのかというのも含めて、総合的に考えていきたいというふうに考えております。
- 佐々木まさひこ委員 すみません、よろしく願いしたいと思います。

それからあと、キッチンカーの団体と協定を結んで温かい食事を提供する、TKBということで表現されてますけれども、この団体とはどの程度、それで、どんなような協定を結んでるのか。

それから、なかなかこういうキッチンカーの団体はどの程度避難所に対して対応できるのかとか、そこら辺のところは今のところ何か計画をお持ちでいらっしゃいますか。

- 防災戦略課長 キッチンカーの経営審議会というところと、すみません、ちょっと名前間違ってるかもしれませんが、そちらと協定組まさせていただきます。

そこと話をしておりますが、発災時はそこに電話して、キッチンカーをこちらに送っていただくことになるのですけれども、周辺の区が広域的に被災していると、足立区の割当てが何台だというのは今のところ明確には聞けてない状態です。

- 佐々木まさひこ委員 なるべくふだんから足立区で営業してもらって、足立区に恩返しするという感じで来てもらうようにやるしかないですかね。

キッチンカーも限られているというふうに思い

- 正式な会議録が作成されるまでの暫定的なものであり、今後修正されることがあります。
- 音声認識システムで認識できなかった発言等は「★」で表示しています。
- 「★」の数は発言の文字数を表しているものではありません。

ますので、よろしくお願ひしたいというふうに思っています。

あと最後、私ドローンも非常に今、市川委員がおっしゃったように大切なツールだというふうに思うのですが、主に災害や建物倒壊状況の被害状況の把握というのが初動の主な任務だというふうに思うのですが、このドローンの計画見ると、赤外線カメラやサーチライトを用いた要救助者の捜索というのできるのですね。それから機体搭載スピーカー最大127デシベルを活用した避難誘導の記載がありますけれども、特に、火災が大きく発生して、閉じ込められた被災者、周りが閉じ込められた被災者に対して、そういったことができれば一番いいのだらうなと思いますけれども、ここまでのことというのは現実どのぐらいできるかなというふうにちょっと思ったのですが、いかがですか。

○都市建設課長 まずフェーズ、いわゆる災害が起こったタイミングがどのタイミングなのか、火災がどのタイミングで起こってるかによって大分ちょっとドローンパイロットの人数にもよりますので、何とも申し上げにくいところもあるのですが、可能な限り職員を集めて、情報も収集しながら、そういうピンポイントでの活動も支援できればなと思っております。

○都市建設部長 補足でございます。

先ほど危機管理部長から図上訓練の話がありましたけれども、都市建設部の図上訓練のときに、何を優先して、例えば火災を発見して人命救助が一番大切なので、なかなか区でも被災経験がないものですから、ただ、ドローンを活用するときには、やはり火災が発生してるとかそういうことを早く見付けて、そこに人が何とか早く行って救助できるような体制を取れることを少しイメージしながら訓練したところでございます。

○佐々木まさひこ委員 そこら辺が一番現実的なところかなというふうには思いますけれども、ただそういったことが本当にできるようになるためには、相当訓練が必要になってくると思いますので、是非そういった訓練も含めて頑張っていただきたいというふうに思いますので、これは要望で、よろしくお願ひいたします。

○さの智恵子委員 私も何点か質問させていただきます。

まず、9ページのこの足立区の地区防災計画がまた改定をされたということで記載もしていただいております。

今回、我が党のトイレさん担当の佐々木委員から質問がございましたが、先日のポンテポルタの防災フェアの方でも、実際にトイレにセットするような、そういう実演コーナーも設けられておまして、大変いい取組だなというふうにも思っております。

ちょっとトイレは私も質問はしないのですが、それで、あの場で実際に実演していただいで、当日何名ぐらいの方が参加されたかというのは、数は、現段階ではお分かりになりますでしょうか。

○災害対策課長 すみません、ちょっと今詳細持っていないのですが、1日500名ぐらい来ていたかと思うので2日間で1,000名ぐらいは来ていたと思います。

○さの智恵子委員 分かりました。やはり実際に見ていただいで、やり方を知るということは大変大事だと思います。

当日は、その携帯トイレの配布等はされたのでしょうか。

○災害対策課長 ポンテポルタの方はブースが3か所に分かれておまして、3か所回るようなスタンブラリーをやらせていただきました。回ってい

- 正式な会議録が作成されるまでの暫定的なものであり、今後修正されることがあります。
- 音声認識システムで認識できなかった発言等は「★」で表示しています。
- 「★」の数は発言の文字数を表しているものではありません。

ただいた方には、携帯トイレを景品として配らせていただいております。

○さの智恵子委員 分かりました。

続きまして、19ページでございます、区取組ということで、今回、液体ミルクの確保ということで、改めて記載もさせていただいております。なかなか液体ミルク、粉ミルクに比べて、消費期限というのですか、それが短いということでございますが、現在、区の備蓄数についてはお分かりになりますでしょうか。

○防災戦略課長 今、手元に資料がありませんので、また報告させていただきます。

○さの智恵子委員 分かりました。

いっとき外出される若いお母さんたちも、粉ミルクよりも気軽ということで液体ミルクを持参する方も増えているかと思えますし、以前備蓄されていたものを消費期限に合わせてお配りをしたということもございますが、今その期限が近づく、また、そういうものについてはどのような活用されているかお聞かせください。

○防災戦略課長 これから新しく備蓄している液体ミルクも粉ミルクも、消費期限が切れる前に、保育施設ですとか、そういったところにお配りして、できるだけ廃棄がないようにさせていただいております。

○さの智恵子委員 分かりました。

粉ミルクに比べて液体ミルク、高いということもございますが、でも、是非こういうものも御自宅でそれぞれが備蓄をしてもらうことも大変重要かとも思いますので、保育施設もそうですが、例えば子育てサロンとか、そういうことも通じて幅広くお配りもお願いしたいというふうに思います。

そしてもう1点、皆様から質問が出ているドローンについてでございますが、今回は、このドローンの運用計画の方も掲示をさせていただいており

ます。

現在12名のパイロットが区の職員でいらっしゃるということでございますが、こちら現在の所属部署というのはどこになるのでしょうか。

○都市建設課長 基本、都市建設部が大多数で、一部衛生部にいらっしゃいます。

○さの智恵子委員 やはり人事の異動もございまして、今後も8名新たにパイロットということでございまして、こちらは希望者が取得をできるのか、人選になるのか、ちょっとその辺の取組についてお聞かせください。

○都市建設課長 ドローンの取得したい職員が多くて、まずドローンを取得することに伴っていろいろな制約があることとかそういうことも確認しながら、本人の意気込みとか、そこら辺も加味して、あと年齢的なものであるとか性別なものも含めて、満遍なく、いろいろな方にとっていただきたいと考えております。

○さの智恵子委員 分かりました。

今回、ミラノ・コルティナのオリンピックでも、多分フィギュアスケートとかでもドローンで映像があったとかいう形で、かなり臨場感もあったかと思えます。

こちらの方でも現在シティプロからも要請が多くということで、例えば道路の開放にあっても、ドローンを飛ばすとか様々ありますので、この1等、2等というものもございまして、20名が本当に妥当なのかなという感じもするのですけれども、こちら1等、2等の大きな違いについてまずお聞かせいただいてもいいですか。

○都市建設課長 1等の場合は、基本的に余り制限がないと考えていただければ、2等の場合は、下に人がいたりする場合に補助者がいなければいけないとか、ある程度ちょっと制限が出てきてしまうというところが大きな違いかと思えます。

- 正式な会議録が作成されるまでの暫定的なものであり、今後修正されることがあります。
- 音声認識システムで認識できなかった発言等は「★」で表示しています。
- 「★」の数は発言の文字数を表しているものではありません。

○さの智恵子委員 災害もそうですけれども、様々な場で活用できるこのドローンパイロットが20名という数が本当にいいのかどうかということもございまして、例えば民間でも、今、先日予算特別委員会で質問させていただいた足立工科高校も実はドローンを持っていてパイロットに希望者も、そういう取得も進めているということもございまして。

そういう意味では、今後、ドローンというのが一つのいろいろな利点を生かしていくこともできるかと思っておりますので、20名という数字についてももう少し検討して、例えばいろいろな部門にというよりは広報であったりとか、あとはこの災害、またこの都市建設というところで、広くそういう取得も進めていってほしいと思っておりますが、いかがでしょうか。

○都市建設部長 さの委員御指摘のとおり、基本的には都市建設部に限らず、全庁的にパイロットを養成していきたいと思っております。

一点付け加えますと、災害来ないことが一番いいのですけれども、いきなり災害時にドローンを飛ばせようとしても、これは多分無理です。日頃から訓練をしてないと駄目です。

ですので、通常の訓練にきちんと出てくれるということを前提に資格取るということをしなくて、取った方がいいのですが、宝の持ち腐れになってしまう、そこは、先ほど都市建設課長申し上げたとおり、人選には注意していきたいし、パイロットは数多く養成していきたいという考えは持っております。

○さの智恵子委員 研修もちょっとお聞きをしようかと思いましたが、しっかりそういう外部でのそういう研修とかもしっかり受けていただいて、やはり本当に大変なときに一番本当に活躍してもらうことが大事ですので、その辺も是非よろしくお

願いいたします。以上です。

○加地まさなお委員 おはようございます。私も何点か質問させていただきます。

まずは、災害ケースマネジメントの導入に向けた状況についてお伺いします。

これ見させていただいて、先ほど佐々木委員もおっしゃってましたが、餅は餅屋とか、何か現実的な部分がよく見えて、申請主義では取りこぼす被災者が必ず出るという問題意識が見えました。

あと、在宅避難者の潜在化ですか、災害関連死につながるおそれがあるということもアウトリーチで拾っていく、既存支援につなぐ仕組みをつくるという考え方、非常にいいなというふうに思っています。

それにプラスして、具体的な数字というのも出ていますので分かりやすかったのですが、これ実際災害ケースマネジメントの対象すごく広いなど、一方では思いました。

その中で、これまず優先順位というのを、各分野、餅は餅屋で非常にいいと思ったのですが、やっぱり区の全庁取り仕切る指揮の中核で優先順位というのはあらかじめつくっておかなきゃいけないのではないかなというふうに思いました。単身世帯、後期高齢者、障がい者、妊産婦、どこから、どこがまずは明確に順位的には上だと思っているのか、優先順位というのは、災害時には、けがをしたときにもトリアージというのがありますので決めておく必要があると思うのですが、それをお伺いしたいと思います。

○災害対策課長 やはり災害時、そういったいわゆる弱者といえますか、要支援が必要な方々というのが被災することが想定当然されますので、事前に考えることが必要だと思います。

今、この段階でどの方を優先といったのはちょっと今考えは特にないのですけれども、そういう

- 正式な会議録が作成されるまでの暫定的なものであり、今後修正されることがあります。
- 音声認識システムで認識できなかった発言等は「★」で表示しています。
- 「★」の数は発言の文字数を表しているものではありません。

ことも含めて、検討していきたいというふうに思っています。

○加地まさなお委員 ありがとうございます。これ実際、各所に専門的に任せるとするのは私も大賛成なのですが、中心になる指揮系統がどういう順位を持っているかということが明確になっていないと、実際、災害時に、あれも必要だからこれ大切だからというふうになってしまって、混乱の原因の一つになってしまうのかなというふうに思いますので、是非そこも検討していただきたいと思えます。

あと、これ見ていて本質が支援メニューの不足というよりも、把握し切れない、困っている人が把握し切れないという声が聞こえないというのが書いてあったのでそのとおりでなと思ってるのですが、これどんな聞き取りとか、研修結果の具体的な応用とか取組の出し方とかというのがどういうふうにするのかというのがいま見えません。基本的には広域に全部出ているので、具体性が少し分からなかったもので、そういったところもちょっと、今後その声のない方への聞き取りに対してはどういうふうにしていくのかまず聞かせてください。

○災害対策課長 やはりこちらから出向いていってアウトリーチ的に御意見を伺っていくということは重要だということは、この被災自治体のヒアリングの中でもありました。

やっぱり規模的に余り大きくない自治体ですと、それこそ全戸調査的な感じでできてしまう、やっつけてしまうらしいのですけれども、足立区ですとなかなかそうはいかないので、先ほど加地委員御発言されたようにちょっと優先度を付けて、どの辺りをターゲットに順番にやっていくのかという、その辺りの整理が必要になってくるというふうに思っています。

○加地まさなお委員 ありがとうございます。

具体的な形はもうすぐ見えていたので、そこを個別に今度はもっともう少し詳細に、細目に作っていただきたいなと、調査をしていただきたいなと思います。

次に、令和7年度足立区防災会議の結果及び地域防災計画改定、そこをちょっと質問したいと思います。

これも具体的に石巻、熊本の現地調査、それが入っていて、TKBの考え、在宅避難促進、防災DX、ペット防災を網羅されている、非常にすばらしいなというふうに思いました。

その中で、これも似てる考えなのですけれども、これトイレ、水、食料、先ほど委員もありましたがベッドの強化、これはできているハードの面だと思うのです。この強化、準備はできている中で、ずっとこのトイレの計画の中で話していた、実際にこの管理責任者がどうなるのか、運営はどうするのですかと、マニュアルはどうするのですかというところが、前回も聞いたのですが、進捗があればお聞かせいただきたいと思います。

○防災戦略課長 トイレの確保管理計画、今策定しておりますが、6か月延長させていただいております。

その中で、トイレのマニュアル、維持管理の方法、誰が管理するののかも含めた、その辺も全て網羅したマニュアルもこちらの期間の中で策定して、計画の方に盛り込んでいきたいというふうに考えております。

○加地まさなお委員 ありがとうございます。

これいろいろと見させていただいて、実際自分も避難所で避難するといったときに考えたときに、気持ちの面というのはすごく大きいのではないかなというふうに思っていて、今回災害関連死もゼロにするという非常にハードルを上げたなど、す

- 正式な会議録が作成されるまでの暫定的なものであり、今後修正されることがあります。
- 音声認識システムで認識できなかった発言等は「★」で表示しています。
- 「★」の数は発言の文字数を表しているものではありません。

ばらしいと思った一方で、より困難になってくるというふうに思ってるんですね。

その前でも明確に打ち出せるかどうかということも重要だったのですが、ハードルが上がったのかなというふうに思っています。

災害関連死の原因が、避難所生活の質とその質を抑えようという考えは十分伝わってくるんですが、そのときに、精神面というのが大事になってくると思います。それがさっきの管理の問題にもつながってくるのですが、今後、実際に災害があったという想定で訓練をするときにも、これ地域の方で、被災者というのは、災害関連死の中には、やっぱりもうこれ以上駄目だなと、もう何か生きていても駄目だなとか、そういったマイナスに思っていく精神的な負担というのが関係してくるのではないかなと思います。

その中に、区の方から積極的に準備とか、管理とか、炊き出しも含めてお願いをするという仕組みをつくっておく、その地域の方をお願いをして、必要とされているというところをスキームを準備しておけば、もう実際そのときに何をしたいのか分からないと、もうこの先がちょっともう大丈夫なかなという不安になってるときに気持ちが紛れたりもして、自分の役割がある意味この災害復旧に向けて役立つんだと、マイナスのイメージも、気が紛れるというのですか、なっていくと思ってるんですね。

そういった点で地域コミュニティとのこのソフトの面で、今回の計画にも盛り込んでいって、地域の方をお願いをする、訓練のときからでも、これ行政の方が全部準備して、こうです、管理者こうですというのももちろんそうなのですが、被災してくれた方の地域の方に、これをやってください、これをお願いしますと、お願いをするというのが、この災害関連死も含めた死者ゼロには必要

かなというふうに思うのですが、いかがでしょうか。

○副区長 先日の江東5区のシンポジウムの中でも片田先生の方から話がありましたけれども、行政側から、これをやってくださいあれやってくださいというのではなくて、自分たちがやはりやらなきゃいけないというような意識に変えていかなきゃいけないという、それが非常に重要だと思います。

ただ、そう言っても簡単に変わらないので、やはりいろいろな災害の実態をお示しして、前にもお話ししましたけれども、能登半島に行ったときには、市の職員はほとんどいなかったです。全部地域の中で避難所運営されてたのです。やっぱりそういったことをしっかりと伝えて、やはり地域のコミュニティの中でお願いをしていく、そういったことを実践訓練の中でやっていく必要があると思います。

○加地まさなお委員 ありがとうございます。正にそれを実は言いたくて、そのためにはどういう準備が必要なのかなど。日頃の本当に中心になる人が使い方とか、そういったものを最低限の部分だけ分かっていたら、実際職員の方が来られなくても現場は動くのかなというふうに思いますので、是非その辺も検討していただければと思います。

それにつながって、図上訓練の実施結果に対して質問させていただきます。

これも実際見させていただいて、今回の非常に重要なのが、指揮者が進捗を一元管理できないと、ホワイトボードや地図更新が滞る、被害を踏まえた作戦立案に地図が生きていない、区民向け情報発信の優先順位付けが不十分だという中で、これもやっぱり順位と、優先順位付けと、今の言った中でも進捗管理、地図の更新、情報媒体の整理、これどれが重要なのかというふうに今回感じてい

- 正式な会議録が作成されるまでの暫定的なものであり、今後修正されることがあります。
- 音声認識システムで認識できなかった発言等は「★」で表示しています。
- 「★」の数は発言の文字数を表しているものではありません。

るかお聞かせください。

○災害対応力強化担当課長 まず、収集した情報を分かりやすく一元的に管理できるような可視化がやはり必要だったと考えております。それをもって、区民の命に重要なところ、そこを優先度をちゃんと付けられるような指揮者が必要であったと考えております。

○加地まさなお委員 ありがとうございます。

優先順位、情報発信の優先順位の中で求めるものが、24時間以内だったら毛布、食料、トイレというのを多分区の方は考えて情報発信は今現状されてると思うのですが、これ災害時のこともほかの現実今まで起きた災害を見てみると、冬の想定が結構多いのかなというふうに思っています。これ、だから寒さによる災害時の災害死とか関連することに対しては着目されていると思うのですが、これ夏だった場合というのはちょっと視点が変わっているのですね。

例えば衛生面の問題だったりとか、暑さによって、冬とは違う保存の仕方とか関係してくると思うのですが、そういった考え方というの取組の中に入っているかお聞かせください。

○災害対応力強化担当課長 これまで総合防災訓練とか図上訓練が、やはり冬を想定したものばかりやってたと思いますので、確かに加地委員おっしゃるとおり、夏での課題もあると思いますので、そういったことを今後取り入れて実施していきたいと考えております。

○加地まさなお委員 すみません、ありがとうございます。

見ていて何か今までの大きな災害が冬に起きているのが結構多いなという中で、そうすると夏はこれ暑い8月、9月だと毛布というのは考え方変えなきゃいけないのかなとかというふうにちょっと思ったので、その視点も持って是非取組を行っ

ていただきたいと思います。

あと、ドローン訓練の、ごめんなさい、ちょっと待ってください、質問いっぱいつくってきたのですが、特にこのドローンが、災害時におけるドローン運用計画（案）見させていただきました。

私は再三にわたってこのドローンをとにかく進めてほしいと質問させていただいて、今回運用計画ができて、私が思ってる以上の計画案になるというふうに感じています。

先ほどのさの委員からもいろいろな提案もある中で、私はもうどんどん進めていってほしいと思っているのですが、その中で、ドローン活用、非常に魅力的ですし、これからドローンをこれはいろいろな面で活用されていくので、パイロットの育成も必要だと思ってるのですが、これ災害時に本当にこれ飛ばせるかと、さっきの話になるのですが、これ操縦士の確保はできている、計画もできているのですが、これ離発着の場所とか飛行調整とか、これはさっきの話に関係すると思うのですが、自由にはドローンを飛ばせないで、そのときに災害時にどういうふうはこのエリアを飛ばすのかとか、あと通信の確保、これがもう必要になっていると思うのですが、現時点では、その辺も訓練の中とかに含んで考えを持っているかお聞かせください。

○都市建設課長 平常時の場合は、ドローンを飛ばすときには手続が必要なのですが、災害時のときには、特例がございまして、そういう手続が不要となります。

ただ、ドローンを飛ばす区域と、ほかの例えばヘリコプターであったりとか、そういうところの錯綜はいけないことですので、どの区域を飛ばすのか、そういうのは例えば警察であったりとか消防とかで情報共有を図る必要がございまして。

○加地まさなお委員 ありがとうございます。そこ

- 正式な会議録が作成されるまでの暫定的なものであり、今後修正されることがあります。
- 音声認識システムで認識できなかった発言等は「★」で表示しています。
- 「★」の数は発言の文字数を表しているものではありません。

までも考えてやっていただけているというのが分かったので安心しました。そこが重要なこと。実際に災害時になったら、それを飛ばせない場所があったりとか、何台飛ばしていいのかとか、そういうのが分かってない中で、操縦士だけいっぱいいても、ドローンだけいっぱいあっても活用はできないので、それは本当にお願ひしたいと思ひます。

あと、20名体制今整えていただいているのですが、さっきの委員の質問にちょっと近いのかなというふうに思ひますが、これ専門で今後、業務、今兼務だと思ひますよね。これをどういうふうに、このドローンの運用計画ができた中で格上げをしていく、ドローン専用も、平時のときでも、どれぐらいの割合がドローンのこの業務に充てられるのか、それともあくまでやっぱり建設部の中で、これは実際兼用なんだよというふうに考えているのかというのが、ちょっと聞きたいなというふうに思ひ、お伺ひします。

○都市建設部長 先ほどの委員の御質問のときにお答えすればよかったのですが、今年度、令和8年度の人事異動で、ドローン推進担当係というのを創設しました。その中で、資格を持つ職員については、ドローン推進係長付の職員が下にならずにつなげてまして、通常時は通常の、都市建設部はいろいろばらばら散らばってますので、通常業務やっていただいて、訓練のとき、もちろん災害時には兼務発令してますので、率先してその現場に行くと、こういう体制を整えました。

あと先ほど、加地委員から御質問で通信の話がありました。せんだつての総合防災訓練で私も現場立ち会って大型ドローンを1kmぐらい離れた感じでやったのですけれども、どうしても通常の回線ですと通信が途切れそうなきがかりました。今後の計画の中にも、運用計画に入っているの

ですが、衛星回線を使って、やはり通信が途切れない体制を今後も努めていきたいということで考えております。

○加地まさなお委員 ありがとうございます。もうすごい、課もできるのだということで、今すごいなというふうに思ひましたが、正に今の通信の問題、本当大事だと思ひていて、通信がなければ実際運用もできないというふうに思ひますので、そこは少しお金が掛かっても、スターリンク等、先ほどHAPSでしたか、含めて、しっかりと万全の準備をしていただきたいなというふうに思ひます。

今の運用の問題で、通信が途切れた場合、これ別途で事故時の責任は利用所属が負うというふうになっております。災害時、これは時間との勝負なので、これ事故リスクもある意味上がってくると思うのですが、これはやっぱり人命救助優先というのが必要に私はなってくると思ひております。その辺の安全確保の義務というのですか、その辺のバランスというのをどういうふうに判断するのかというのをこれから求められると思ひますので、それをお聞かせください。

○都市建設課長 毎月1回ドローンの訓練をやっております。そのときにやはり災害時を想定したわけではないですけれども、やっぱり能力が発揮できなければ意味ありませんので、そういうところもやらせていただいております。

また、あつてはならないことなのですが、もしドローンが例えば災害時に、例えば人にぶつかってしまったとか、建物にぶつかってしまったとか、そういうこともあり得る可能性もございますので、そこは保険をしっかり入って、区の責任になりますので、保険も入って対応していきたいと考えてます。

○加地まさなお委員 ありがとうございます。やっ

- 正式な会議録が作成されるまでの暫定的なものであり、今後修正されることがあります。
- 音声認識システムで認識できなかった発言等は「★」で表示しています。
- 「★」の数は発言の文字数を表しているものではありません。

ぱりそういうことも十分想定されますので、そこもしっかりと、保険等、それも保険の中でもいろいろな保険があると思いますので、ただ金額が高ければいいとかいうのではなくて、区の中でどういったことが起きるかというのも想定しての保険会社の契約を結んでいただきたいと思います。

それともう1点、この前の消防団運営委員会、参加させていただいていまして、委員として話を聞いていたのですが、その中で、委員の方からこのドローンの話も出ていて、消防団の中でドローンを取るのはいかがでしょうかという話がありました。

私は、実はそれよりも、これだけの運用計画、ドローンに対しての足立の取組がありますので、先ほども警視庁とか消防庁とかあると思うのですが、消防署の方に、足立区のドローン計画これだけあるので、逆に協定を結んで、足立区のこのドローンを活用してくれないかというような、この取組の働きかけというのをしていくのがいいのではないかなというふうに思ったのですが、いかがでしょうか。

○都市建設部長 加地委員、今御質問の内容なのですが、私は近藤区長から会議の話で、例えば消防団員の方に資格を取ってもらうことも一つの方法なのではないですかという話を聞きました。

一方で、やはり発災時にきちんと参加できる、活動できるかどうかもありますので、今、3消防署にそういった意向があるかどうかの確認と、あと先ほど訓練の一環で河川敷で行った水防訓練でも3消防署の方は私どもドローンの運用を見ておりますので、どういった活用ができるか、連携できるかというのは引き続き検証したいと思います。

○加地まさなお委員 分かりました。ありがとうございます。

今聞かせていただいて、私は、どちらかというとドローンは区の最大の、先駆的に自治体の中で

も取組があるんだよということを進めていただきたいと思いますので、専門性が求められるものだと思います。

そのために資格も取っていくというふうになっていると思いますので、それも、足立区がこういう取組をしているんだよというのも警視庁とか消防署の方にも定期的に情報交換と情報共有していただいて、逆に足立区のドローン部隊が災害時には役立ついただけるのかなというふうに話を進めていっていただきたいと思いますのですが、最後にお伺いいたします。

○都市建設部長 実は訓練のときにやはり消防、警察の方も足立はドローン持ってるということを知っていただいております。かなり関心高うございますので、加地委員御指摘のとおり、引き続き連携して、いずれにしても災害時に活動できなければ意味がありませんので、それに向かって取り組んでまいります。

○加地まさなお委員 ありがとうございます。

○鹿浜昭委員 すみません、今回のこの報告資料を見させていただいて、本当に危機管理やるのがたくさんあるな、広範囲だなというのを実感させていただいて、本当に、特にこの災害マネジメントの導入ということは、本当にこれできるのかなというちょっと不安を先に抱いた感じでございます。

アウトリーチでやっていって、すごく内容的にはすばらしいなとは思うのですけれども、これを実際誰が具体的にやっていくのかと思ったときに、私は今の体制ではちょっと難しいのかなというのが正直なところ不安に感じたところでございまして、これは内閣府から多分出た内容なのかなというふうに思っておるのですけれども、先ほど加地委員からも広範囲、広域に大分うたってあるので、これをやっていくことは、自分自身ちょっとどう

- 正式な会議録が作成されるまでの暫定的なものであり、今後修正されることがあります。
- 音声認識システムで認識できなかった発言等は「★」で表示しています。
- 「★」の数は発言の文字数を表しているものではありません。

なのかなと、その体制づくりの面ではすごく必要なのかなというふうには思うのですが、なかなかこれを具体的に、最後、アセスメントシートまで最後一人一人に合わせた計画を立案して解決していくと、すばらしいことだと思うのですが、なかなかちょっと具体的には難しいのかなというふうに正直思いました。

やることはたくさんあると思うのですが、何か途中で終わってしまうっていうことが今までもなきにしもあらずだったのかなというのは正直ちょっと思うので、是非その辺は整理していただいて、今後進めていただければありがたいな、そんな思いでもございます。

それと、防災会議、地域防災計画の改定についてなのですが、いわゆるTKBということの中で、先ほどキッチンカーのちょっとお話があったので、日本キッチンカー経営審議会、これ足立区も協定結んでるのでありますが、いつ結ばれたのですか。

- 防災戦略課長 日本キッチンカー経営審議会との協定になりますが、令和5年12月1日になります。すみません。失礼しました。
- 鹿浜昭委員 まだ3か月ぐらい、令和5年。
- 防災戦略課長 令和5年でございます。すみません。
- 鹿浜昭委員 令和5年というと、2023年。私ちょっと調べたら、江戸川区が2024年の9月17日に結んで、これ700ぐらいの事業者があるということで、会社は千代田区にあるのかな、平河町にあるみたいで、協定結んで、足立区とこのキッチンカー経営審議会とは、その協定で、費用面ではどのような取扱いというか、されてるのですかね。
- 防災戦略課長 協定の中では、キッチンカーが出した弁当のおかず掛ける、そのときの単価という

のを足立区から支払うことになります。

その単価というのが、そのときに、災害救助法の中で定められた金額を足立区からお支払することになっております。

- 鹿浜昭委員 そうすると、ふだん年契約ではないけれども、その契約という形ではない協定なので、すね、あくまでも。すると、今、協定を結んで、費用的な動きはないということなのですね。すごく、先ほど何割割当てになるか分からないという、災害時に、実際はそういう話になっちゃうとすごく不安を抱いちゃったんですね。ですから、何かその辺でもう一歩立ち入った何か契約みたいな形ができないのかなというふうな思いがあるのですが、その辺はいかがでしょうか。

- 防災戦略課長 先ほど委員からも御指摘ございました。ふだんから恐らくお付き合いを深くして、いざというときに足立区に来ていただくように、いろいろ連絡を取り合って、できるだけ足立区にキッチンカーが集まるような形で話をさせていただきたいというふうに、いただく方向で検討します。

- 災害対策課長 ちょっと1点補足なのですが、このキッチンカー経営審議会の中心にいる方が実は足立区の方で、そういう縁もあって協定を結ばせていただいたのです。

審議会としても、あまり手広く協定をどんどん結んでいくということはあまり考えてないというふうにおっしゃってました。やっぱり自分たちがきちんと供給できるというのが前提になければいけないので、どんどん結んでいくとか考えてないというふうなことはおっしゃってましたので、そういった意味では全国的にキッチンカーのネットワークがあるということもございますので、足立区の方には支援入っていただけるものというふうには考えてます。

- 正式な会議録が作成されるまでの暫定的なものであり、今後修正されることがあります。
- 音声認識システムで認識できなかった発言等は「★」で表示しています。
- 「★」の数は発言の文字数を表しているものではありません。

○鹿浜昭委員 少し安心させてもらいましたけれども、江戸川結んで、あと何区結んでるからちょっと私もそこまで調べてないので分からないのですが、何か700者という、足立区、いざとなったときどうなのかなというふうに思って、それでちょっと調べたところ、レスキューキッチンカーというのがあるみたいで、これは500人以上の食材を提供できるというようなキッチンカーらしいのですが、その辺は調べられたことがありますか。

○防災戦略課長 すみません、ちょっと今知った言葉であります。また今後、そのレスキューキッチンカー、こちらで調査研究させていただければと思います。

○鹿浜昭委員 是非よろしくをお願いします。

それと、先ほど簡易ベッドの話もちょっと出たのですが、今、ちょっと私も、耐用年数というか耐久性というか、すごく不安に思ってたのが段ボールベッドで、段ボールはずっと空気に触れて放置しておくとなんか柔らかくなっちゃって、ベッドとしての用を足さないというか、多分100kgぐらいの体重制限があるのかな、今新しい新品で買うと。それが、例えば、今ちょっと耐用年数調べたら多分5年ぐらいと書いてあるのですが、多分3年だと80kgぐらいなのかよく分からないですけれどもね。

ただ、紙なので、当然湿気を帯びるもう弱くなると思うんだよね。その辺というのはどうお考えなのですかね。

○防災戦略課長 段ボールベッドの耐用年数が5年というふうに言われています。

一方で、今回我々が購入した7,000基のこの折り畳みベッド、リクライニングベッドは10年の製品になっております。

○鹿浜昭委員 エアベッドはどうなの。エアマット。

○防災戦略課長 エアマット、こちらもちよっと今手元に資料がありませんので、調べさせていただきます。

○鹿浜昭委員 何かやっぱり物があるということは耐用年数あって耐久性も当然落ちていくということがあるので、是非その辺も買換えの時期も考えながら進めていっていただきたいなと、そんな思いでございます。

それと、あだち備蓄の日が毎月19日で今、設定されているかと思うのですが、私もせっかく携帯トイレの方、ネットの方で買わせてもらったのですが、100個買うとネットで6,800円ぐらいで買えました。

やっぱりこの19日、最低、区民の防災意識を向上させていくには、このあだち備蓄の日で最低3日分の備蓄を是非これを100%を目指していただきたいなというふうに思うのですが、今現状どのくらいなのか。その辺は調査はされてますか。

○災害対策課長 トイレの備蓄の割合というところではありますので、鹿浜委員御発言あった備蓄の日もそうなのですが、いろいろな場面で、我々今在宅避難の重要性みたいなことを訴えさせていただいておりますので、その中でトイレの必要性、重要性は引き続き啓発してまいりたいと考えてます。

○鹿浜昭委員 是非、意識向上を、啓発運動を行政としてしっかりやっていただいて、何とかいざとなったときにすぐに動ける区民というか、先ほど副区長の方から、避難所運営も地域の組織で成り立っているという、行政頼りにしないで、やっぱり地域がそれだけのものをしっかりしていただくということが理想なのかなというふうに私も思っていますので、是非その個人がその意識を持つこ

- 正式な会議録が作成されるまでの暫定的なものであり、今後修正されることがあります。
- 音声認識システムで認識できなかった発言等は「★」で表示しています。
- 「★」の数は発言の文字数を表しているものではありません。

とを、毎月19日せっかく定めたので、それをもっともっと啓発できるようなものを考えていただいて、100%、3日分の備蓄は各家庭にある、在宅避難を完璧にできるぐらいの何か体制を是非よろしくお願ひしたいなと思います。いかがですかね。

- 危機管理部長 鹿浜委員おっしゃること私も全く同感でございます、この取組について、行政だけでやることはなかなかちょっと難しい、その広がりも含めて、そういったことの意識の広がりも含めて、なかなか難しいなと考えているところでございます。

来年度からの避難所運営訓練について、一番最初の会議、そこのリーダーを集めて行う会議が4月にあるのですけれども、来年度は、その中で、単にこちらからお知らせばかりをするのでなく、今自分たちの避難所でどんなことができてないのか、それから、全くできてない避難所もあるので、どういったことが足かせになってできてないのかとか、そういったところをグループワークをして、皆さんに持ち帰ってもらって、やっぱりまず避難所の方々、運営される方々の意識を高めていただいて、そういったところに合わせて、今進めております防災リーダー、防災リーダーの仕組みを絡めてだとか、そういうふうにして、全区的に何か取り組めていけるように、気付いたら、みんながそういった備蓄の方に関心が向いてたというふうに進めてまいりたいというふうに思います。

鹿浜委員おっしゃられた19日の備蓄の日の取組についても、これからますますちょっと力を入れてまいりたいと考えております。

- 鹿浜昭委員 ちなみにですが、鹿浜地区の4町会が地域防災会議というのを今回で、この3月末9回目やってるんですね。だから、そういう取組に対して、何か助言されたりアドバイスされたり、

何かそういうやっぱり士気があるところに何か行政の考え方というか、今こういうふうにされた方がよろしいという、何かその辺のタイアップをやっているだけであればありがたいなというふうにも思うので、是非よろしくお願ひします。以上です。

- 災害対策課長 先ほどのエアベッドの耐用年数ですけれども、10年ということでした。
- 水野あゆみ委員長 他に質疑ございませんか。
- 伊藤のぶゆき委員 ちょっと私からは1点だけ。

守谷市と災害協定を結んでるということですが、これ今2月には普通に、普通というか、今までどおりの災害協定を1回結んだということですね。

これ何で守谷市と今後、相互応援に関する協定を結ぶということになった経緯を改めて教えてください。

- 防災戦略課長 つくばエクスプレスのTXの協議会で、一応守谷市と関係があったというところで、お互いの思いが重なったというところで、協定の締結に至っております。

- 副区長 TXの協議会の中で、実は向こうの市長からも足立区といろいろな取組をしたいということがございましたので、その協議会の際、私が出席をして市長に是非防災協定、具体的な防災協定を結びたいというお話をそこからスタートしました。

- 伊藤のぶゆき委員 これから細かいことが決まってくると思うのですけれども、イメージとしては、区としてのイメージとしては、震災ですか、水害ですか、どちらをイメージしてやっていくのだろう。

- 防災戦略課長 一応水害も震災も一応広域避難、必要になる場合がありますので、どちらかというところでも考えておりますが、特に、今避難所が

- 正式な会議録が作成されるまでの暫定的なものであり、今後修正されることがあります。
- 音声認識システムで認識できなかった発言等は「★」で表示しています。
- 「★」の数は発言の文字数を表しているものではありません。

12万2,000人足りない、我々がアピール、PRしてますのは、区内の避難所で足りなくなるわけで、広域避難が必要になるというのは水害の発生前になりますので、どちらかというと重きを置いてるのは水害発生前になります。

- 伊藤のぶゆき委員 これからやっていくことなのでいろいろ区も考えてやっていくと思うのですが、この間、江東5区のシンポジウムがあったと思うのですが、これすごくいいことだと思ってるのですが、個人的に、いいことだと思ってるのですが、足立区以外で、ほかの要するに葛飾でも台東、江東5区でもそうなのですが、同じようなことをしている区はほかにあるのですかね。
- 防災戦略課長 基本協定のようなものを他の自治体で結んでいるというのは、墨田区もありますし、恐らく葛飾区、他区も結んでいると思います。
- 伊藤のぶゆき委員 これ今回、守谷市が多分スタートで足立区もやっていくと思うのですが、これ積極的にもっといろいろな区とやっていただきたいというのが私の要望というか、すごくいいことだと思うので、ほかの、言い方悪いですが、ほかの区に取られる前に、足立区が行きやすいところとか足立区に来やすいところの市としっかり提携をして、災害対策に備えていただきたいというのが1点と、ちょっともう1個聞きたいのが、今多分強化担当課長は外部から来てるではないですか、足立区に。多分、区の職員も区に派遣したりとかということが出向して、例えば地域のこと、地方のことを訴えるという名目で国に出向、都市建設部長も多分行ったことあると思うのですが、こうやって出向してる職員があると思うのですが、これ足立区の職員が、例えばですよ、この守谷市みたいな、そういう災害協定今度結ぶわけではないですか。そこに出向

するということはまず可能ですよね。これちょっと確認したい。

- 副区長 お互いに多分交換してという形が普通だと思うのですが、別のところですが、ほかの自治体からは是非交流したい、友好自治体からは是非そういうことをやりたいという申し入れがありますので、それぞれ思いが一緒になればできるということでもあります。
- 伊藤のぶゆき委員 これ従来型の災害協定概要の中に、職員の派遣等ということが書いてあります。これ、今まで災害協定を結んだところに職員を、今言ったように派遣をしたりとか交換をしたことというのはあるのですか。
- 副区長 東日本大震災とか、能登もありましたね。鋸南とか派遣をしております。震災後ですけどもね。
- 伊藤のぶゆき委員 派遣ではなくて、平時のときから例えば区の職員を要するに出向させていることというがあるのかどうかということです。
- 副区長 それはまだ行ってないと思います。
- 伊藤のぶゆき委員 これは是非今回のことに、詳細がこれから決まっていくというのだったら、是非、この足立区の職員、課長、部長級はなかなか難しいのかもしれないのですが、係長級の、正にエース級ではないのですが、そういった方にこの守谷市に、言うのは勝手ですよ、行く人は大変なのは重々分かっておりますけれども、是非これ出向させていただきたいと思ってます。
- これなぜかという、守谷市役所に、今調べると、守谷市役所まで多分車で40分とか50分ぐらい首都高で通えちゃうのですよ。車で通えというわけではないのですが、要は、今後多分物資を置いたりとか、例えば人を派遣した、避難所をつくらしたりとかするとき、当然守谷市の職員は守谷市のことを知ってるけれども足立区のこと

- 正式な会議録が作成されるまでの暫定的なものであり、今後修正されることがあります。
- 音声認識システムで認識できなかった発言等は「★」で表示しています。
- 「★」の数は発言の文字数を表しているものではありません。

とは分からない。足立区のことは、足立区の職員は足立区のこと分かるけれども守谷市のことは分からない。でも、災害の物品が置いてあるという事は、そこから持ってきてもらわなきゃいけないといった場所の、例えば高速道路を使うのか、高速道路が駄目になった場合下道を走らせるのかというイメージが、多分足立区の職員がやっぱり1人とか2人とか、今後継続的に要するに持ってないといけないのではないかなと思うのですよ。

向こうに置いて、大体関東大震災が多分横浜の方で起きて、首都直下型地震が多分東京湾の北部で起きる可能性が高い。そこは、横浜の方で起きるか千葉の方で起きるかとなってくると、茨城の方は若干多分東京に比べれば多分被災が少ないと考えると、結構この守谷市のこの今回の協定、今後の方針とか見ると、結構大きなキーポイントになるのかなと思ったときに、区の職員がリアルに物を考えられている方がいいのではないかなと思うのですよね。

行く人は大変ですよ。行く人は何度も言いますが、けれども大変ですけども、でも国に行く人もいれば、ほかのところに、担当課長だって今足立区に来てるわけですから、一、二年、守谷市に行ってもらって、そのイメージを持ってもらう人がどんどん増えてきたときに、要するに今後この協定というのがほかのところと結ぶときに、すごい生きてくるのかなと思うのですけれども、何度も言いますが、行く人は大変なのは分かるのですけれども、是非これ守谷市の方に、守谷市の方からも受け入れていただいて、多分守谷市から見れば足立区の防災災害対策は結構進んでると思うのですよ。ドローンが今これだけ進んでるというの、多分私が議員になって一番最初にドローンの協定を結ばせるのにお手伝いをさせてもらったときに、今後、災害ではドローンが絶対必要になるという話

から、今多分足立区は結構先進的なところまで進んでくると思うので、これほかの区がやってないのだったら、守谷市の職員を受け入れて、足立区の職員を守谷市に送るということを是非やっていただきたいと思うのですけれども、ちょっとこれどうですかね。

○副区長 非常に重要な視点かなと思います。

この間の広域避難のシンポジウムでもちょっとお話ししましたけれども、今、荒川とか利根川のの上流の自治体との交流もやってるのですね。

その中で出てきたのが、単に避難協定を結んでも、誰も知らないまちには行かないよ、やっぱりそこを知ってるから行くんだよという話がありました。ですから、そういう意味で、職員を派遣してそのまちを知ってもらって、ここはこういうところだよということを伝えてもらうということは非常に重要なことだと思います。

これから、守谷が一番最初です。これから、秩父の方の自治体との協定も具体的に結んだり、今、通常の災害協定結んでるところももっと具体的に結ぶ運びになりますので、どこに派遣するのがいいのか、それはちょっと考えないといけませんけれども、相互に、お互いできるのであれば、そういった形で派遣するというのはいいい視点かなと思います。

○伊藤のぶゆき委員 最後にします。

区の職員はどうしても異動があるのでなかなかそのプロフェッショナルになるというのは難しいかもしれないですけども、やっぱりそろそろ区の職員で、ドローンもそうですけれども、プロフェッショナルな方をつくっていただいて、例えば危機管理だったら危機管理もうずつという職員がいてもいいと思うのですよ。

危機管理部長が危機管理部長になると東京に引越さなきゃいけないという多分御苦勞もあると

- 正式な会議録が作成されるまでの暫定的なものであり、今後修正されることがあります。
- 音声認識システムで認識できなかった発言等は「★」で表示しています。
- 「★」の数は発言の文字数を表しているものではありません。

思うのですけれども、でも、やっぱりそういった職員が各課に何人か、4人でもいいんです、5人でもいいんですけれども、多分昔いたと思うのですよね、土木の職員はもう土木屋だから俺たちはみたいな方が僕が議員になったとき、まだいらっしやっした。そういう方々が、区の職員に、そうですよね。副区長も多分おっしやっしたと思うのですよ。そういう職員が、課長、部長にならなくても本当に縁の下の力持ちの職員という方々がいっぱいいるので、その人たちに、ある程度目星を付けて、その方々が例えば災害時にプロフェッショナルとして要するに現場で活躍していただいたりとか、いろいろな計画を組み入れるときにしていただく職員を、そろそろ役所もまた再度つくってもいいのかなと思うので、これは要望ですので、是非お願いいたします。

○危機管理部長 庁内に複線型人事制度というものもあって、今、危機管理部ではないのです。福祉だとか、そういう部署ごとに、そういう長年いれる仕組みもあるので、ちょっとその辺を少し考えてみたいというふうに思います。ありがとうございます。

○水野あゆみ委員長 他に質疑ございませんか。

[「なし」と呼ぶ者あり]

○水野あゆみ委員長 なしと認めます。

————— ◇ —————

○水野あゆみ委員長 次に、その他に移ります。

何かございますか。

○工藤てつや委員 すみません、私の方から足立区の災害時のトイレ確保管理計画の進捗について伺いたいと思います。

今議会で代表質問、それから予算特別委員会でも触れさせていただいたのですけれども、確認の

意味で伺いたいと思います。

災害時のトイレ確保の一つとして仮設トイレが示されておりますけれども、仮設トイレについては、これから各自治体で需要が非常に高まっていくのではないのかなというふうに思っております。

情報収集も含めて、平時からこの仮設トイレを確保していくというような方針も必要なかなと思うのですけれども、現在の進捗状況も含めてちょっと伺いたいと思いますが、いかがでしょうか。

○防災戦略課長 今、トイレ空白地域というのを出示まして、そこをどんなトイレで埋めていくのかというのを検討しています。その中で、仮設トイレを使っていくというのは大変有効な手法の一つであるというふうに認識しています。

一方で、仮設トイレをふだんから保有してしまうと、平時どうするんだとか、どこに保管するんだ、というような課題が出てきますので、そこらを解決できるような民間サービスも今いろいろ考えられているというふうに聞いておりますので、また引き続き、民間の新サービス等々の調査研究を進めたいというふうに考えております。

○工藤てつや委員 私の方で、民間の事業者さん御紹介もさせていただきました。是非、メリット、デメリット等々あるかと思うのですけれども、やっぱり早めに動いていかなきゃいけない課題だと思いますので、お願いしたいというふうに思います。

それから、仮設トイレの設置、管理、清掃ということで、このためにはやはり地場の事業者さんの御協力が必要になってくるのではないかと考えています。

かねてからこういった事業者さんとの連携、それから、早くこの災害協定も締結した上で、この管理計画も進めていただきたいということで要望させていただいておりましたけれども、現在のこ

- 正式な会議録が作成されるまでの暫定的なものであり、今後修正されることがあります。
- 音声認識システムで認識できなかった発言等は「★」で表示しています。
- 「★」の数は発言の文字数を表しているものではありません。

の進捗の状況も含めて伺いたいと思いますが、いかがでしょうか。

○防災戦略課長 災害用トイレ、仮設トイレ等々は設置して終わりではなく、維持管理が必要です。その維持管理を今、公園を平時に、公園のトイレを平時に清掃している業者等々に話を聞きました。そちらの業者の方々は非常に前向きな形で答えていただいていますので、災害時のトイレ置いたときの維持管理についても協定締結できるように、引き続き続けていきたいというふうに考えております。

○工藤てつや委員 是非進めていただきたいと思います。

それから、予算特別委員会の中で、区長からは、事業者のみならず、地域の町会・自治会の皆さん、学校関係の皆さん、PTAの皆さんということで、様々な団体との連携も必要になってくるというような御答弁ちょっといただいたのですけれども、そうなるのかなり広範囲な形での連携ということになります。この管理計画、こういったところも踏まえた上で、しっかりと対応できるのか、ちょっとこの点についても伺いたいと思います。いかがでしょうか。

○防災戦略課長 基本的に今、地元の方々には、一時避難所ですとか、そういった避難所のトイレを維持管理していただけるようなマニュアルを策定しております。

区内全体の公園までそれを含めると、地元の方の負担がちょっと増えてしまうかもしれませんので、ちょっと足立区内の業者を配置したり、区内全域で維持管理できるような体制というのをまた計画の中で検討していければなというふうに考えております。

○工藤てつや委員 分かりました。

最後になります。先ほど鹿浜委員からも御質問

がありましたけれども、同時にやはり携帯トイレの使い方、それから備蓄についても、効果的なやはりPRが必要になってくると思います。あらゆる場面を通じて、こういったPRをしっかりと行っていただきたいと思いますが、最後いかがでしょうか。

○防災戦略課長 避難所の開設訓練ですとか、各種イベント等々ありますので、そういったところの機会を見逃さずに、そういったところ全部で配布していきたいというふうに考えております。

○水野あゆみ委員長 他にございませんか。

○防災戦略課長 さの委員からいただきました御質問で、液体ミルクの備蓄数をいただきました。

今、足立区では、液体ミルクと粉ミルクで、合わせて3日分を備蓄しております。その中で、液体ミルクは1日分の6,000缶を備蓄している状況でございます。

○水野あゆみ委員長 それでは、以上で災害・オウム対策調査特別委員会を閉会いたします。ありがとうございました。

午前11時21分閉会